

はじめに

平成19年9月に宇治橋下流宇治川右岸堤防付近で宇治川太閤堤跡が発掘されました。

この遺跡は、豊臣秀吉が命じて造営した太閤堤の一部と考えられ、当時の治水技術の高さを知る上でもたいへん貴重な遺跡であり、近く国の史跡に指定される予定です。

本市といたしましても、この遺跡を保存するとともにその周辺を観光宇治の新たな拠点と位置付け、ここを訪れる多くの人々にとって、時代を超えて宇治の歴史が体感できる場となるよう整備して参りたいと考えております。

一方、宇治橋周辺地域は、宇治川を中心とする自然景観に加え、世界遺産である平等院や宇治上神社をはじめとする歴史・文化遺産にも恵まれ、宇治茶の伝統や文化が息づくまちなみが残されており、本年2月には重要文化的景観として国の選定をいただいたところでございます。

そこで、宇治川太閤堤跡の発見を契機に、これまで推進して参りました源氏物語を中心とするまちづくりに「秀吉と茶の湯」という新たなテーマを加えまして、宇治の歴史・文化や景観を守り育てるとともに未来に継承していくため、「宇治茶と歴史・文化の香るまちづくり構想」を策定いたしました。

今後は、この構想に描かれた新たな拠点整備や周辺のまちづくりが1日も早く実現し、源氏物語千年紀で賑わった宇治のまちが、さらに魅力を増して市民の皆様から愛され、多くの観光客に訪れていただきますよう、市民の皆様や関係者の皆様と力を合わせて進めて参りたいと考えております。

最後になりましたが、この構想の策定にあたり、ご尽力を賜りました構想検討委員会の委員各位をはじめ、ご協力を賜りました皆様へ心から感謝を申し上げます。

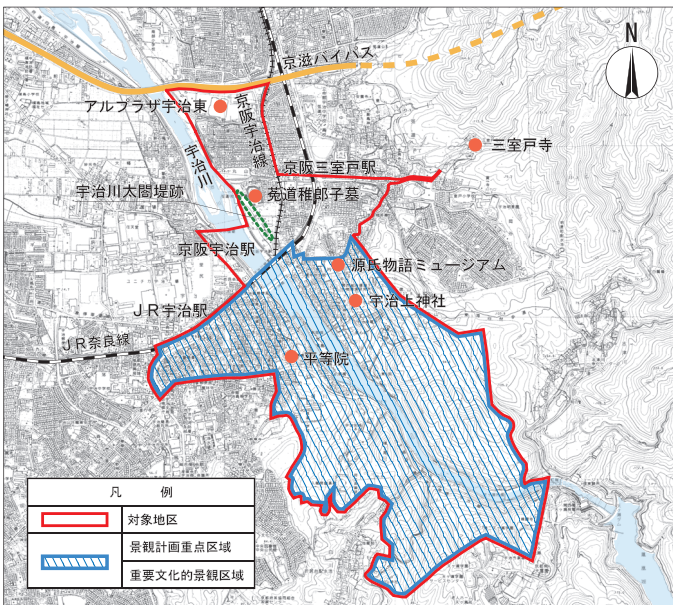


平成21年7月

宇治市長 久保田 勇

1 対象地区の設定

本構想の策定にあたり、宇治橋周辺の歴史・文化遺産や観光施設とこれらを結ぶ観光周遊ルートならびに「宇治市景観計画重点区域」を含み、まちづくりを一体的に進める必要がある一定の範囲を検討対象地区とし、下図の約300haを設定しました。



■ 太閤堤とは

太閤堤は、1590年代、伏見城築城に際してこれまで宇治橋付近から巨椋池に流れ込んでいた宇治川の流れを付け替え、水運充実と街道整備を行うために豊臣秀吉が命じて造営されたと考えられる宇治川・淀川堤防で、これまで宇治川左岸での存在は確認されていましたが、右岸では今回が初めての発見となります。

通常こうした堤防遺跡は河川範囲にあることが多く、今回のように河川敷からはずれた場所で発見され、かつ当時の原型をよくとどめているものは全国的にも稀です。

また、今回発見されたものは、現代の治水技術に匹敵する高い技術が認められるたいへん貴重な遺跡で、近く国の史跡に指定される予定です。

